The best relationship

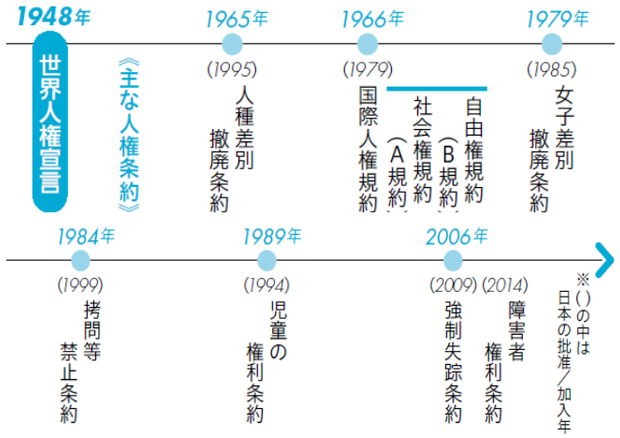
～最高の仲間たち～

第二学年通信　No 69



『人権週間』を前に　Ｎｏ２

世界人権宣言は、前文と３０条の条文から成り立っています。
この宣言は、守らなくても罰則があるわけではありません。
そこで、国際的なルールによって世界人権宣言の理想を現実のものにしようと、多くの人権条約が生み出されました。

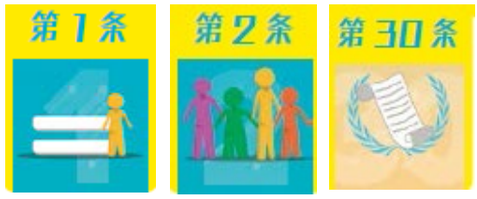


世界中の人々に読まれているこの宣言は７０年たった今、
本当に生かされているのでしょうか？
紛争や迫害などにより、住む場所を追われた難民の数は毎年増え続け、禁止されている【人種差別】,【女性差別】,【無差別の虐殺】などが世界中で続いています。
１億２６００万人の日本も例外ではありません。

私たちの身のまわりではどうでしょうか？
『あいさつ日本一』を掲げる**４２０人**の衣川中学校,
１６０人の７３回生，**４０人**のクラス，**〇人**の□□部，・・

大切なことは、**『どれだけみんなが実行しようとするか』**ではないでしょうか・・・。





人は生まれながらにして自由・平等です

すべての人に差別なく権利があります

権利や自由はそれを破壊するために使うものではありません

明後日16日(金) 人権作文全校発表会 です

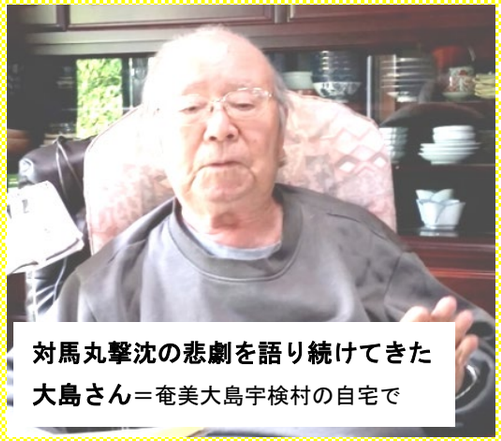
『沖縄』を知ろう　Ｎｏ18　対馬丸(つしまる)とは・・・(２)

悲劇目の当たりに、 慰霊碑建立のために尽力した大島安徳さん

「一生の悲願でした」

大島さんはほっとした表情で振り返る。
宇検村などの海岸線に学童らの遺体が漂着しはじめたのは撃沈から１週間あまり経ってから。撃沈地点から奄美大島までは約 150 キロ。サメなどに身体の一部を食いちぎられたような遺体も少なくなかった。
当時 17 歳の大島さんも青年団の一員として海に出た。亡きがらは砂浜などに丁重に葬ったという。

「まさに肉の海でした。私たちは強い焼酎をあおって作業にあたりました。あまりにむごく、感覚を麻痺させなければいられなかったのです」



対馬丸撃沈の悲劇を語り続けてきた大島さん＝奄美大島宇検村の自宅で

【2018.05.16　アジアプレス】



「対馬丸」の慰霊碑の除幕式 2017 年 3 月
宇検村船越(ふのし)海岸で行われた。



1944 年 7 月、「サイパンの次は沖縄だ」と判断した軍の要請で、政府は島外へ疎開させる指示を出します。予定人数は、日本本土へ 8 万人、台湾に 2 万人の計 10 万人。しかし県民の疎開は、なかなか進みません。
「勝つ、勝つ」を繰り返す軍の言葉に、沖縄が本当に戦場になるのか判断がつかず、また周辺海域の危険をそれとなく知っていた県民は、船に乗ることは一つの「賭け」でした。
7 月 19 日、県は「沖縄県学童集団疎開準備要項」を発令し学校単位で疎開事務を進めます。
一方、子ども達は
「ヤマト(日本本土)へ行けば、汽車にも乗れるし、雪も桜も見ることができる」
と修学旅行気分ではしゃいでいました。